

## 令和5年度第2回佐久市不登校等対策連絡協議会 概要

- 1 日 時 2023(R5)年10月11日(水) 14:00~16:00
- 2 場 所 佐久市役所 南棟3階 大会議室
- 3 出席者 依田会長、北垣内副会長、原委員、藤沢委員、福島委員、関口委員、甘利委員、林委員  
以上8名  
事務局 吉岡教育長、藤巻学校教育課長、堀籠主幹指導主事、大井学務係長、高橋指導主事、  
大工原主任

### 4 会議の概要

#### (1) 協議事項

ア 長野西高等学校望月サテライト校 柳沢 勝美 副校長による講演

「通信制の新たな学びの場を目指して」(資料参照)

- ・レポートが出せるかが重要
- ・おしつけるものが何もない。様々な選択肢を準備する。
- ・できたことを認める。

○1年生 女子生徒の話(佐久市内中学校卒業、チャレンジ教室通室経験生徒)

- ・小5後半から学校に行きづらくなった。理由は自分でもわからなかった。
- ・塾で勉強し、中学受験。中1の頃、人の視線が気になる自分に気づく。
- ・中2で転校し、その後チャレンジ教室へ通う。年上の友だちの存在⇒楽しい!
- ・友だちが卒業し、朝早く家を出るのがつらく、母とけんか⇒自転車でチャレンジ教室へ
- ・その日のうちに母親が電動自転車を買ってくれた⇒毎日自転車で通室(浅科に移転後も)
- ・友人がいること、人が少ないこと⇒望月サテライト校への進路決定
- ・中3の修学旅行、卒業式も参加できた。
- ・担任との約束…その日どうするかを毎朝学校に電話。「チャレンジに行く」と言うのが申し訳ない  
気持ちと負担感があった。

☆高校生活でも楽しいのは、友だちとの関わり。

バスが朝1本、帰り2本しかないのが不便。

イ さらなる支援の充実や関係機関との連携について

○佐久市児童生徒の状況及び不登校対策への取組

ウ その他

○前回資料「学校への依頼文フォーマット」について

- ・県においてもフォーマットを作成しており、まもなく出来上がる。

エ 委員の方からご意見・感想

○すべての児童生徒が安心して学べる学校づくりに向け、よい刺激をいただくことができた。

○柳沢副校長先生、生徒さんの話は衝撃であり、心温まるお話でもあった。不登校が増えている、過去最高だ…でとどまらず、その先に何ができているのか、どんなことが起こっているのかが示されたことで、前向きな気持ちを持つことができた。

○佐久市の取組として、不登校をそのままにしておくのではなく、中間教室等とつなぎ、そこでの支援を丁寧に行い、自己を発揮できる力を育み、自分の願う進路につなげ実現を助けるという一連の流れが明確に見えた。取組の大きな成功例として大切にしたい。これらをできるだけ多くの児童生徒、家庭に広げていくために何が必要かについて考えられた。

○望月サテライト校での学びの特徴を知ることができ、学校生活がイメージできた。また、実際に通学している生徒さんの話を聞いて、チャレンジ教室への通室や進学先の選択、高校生活の様子について、感情の変化も交えて聞くことができよかった。

☆切れ目のない支援体制が必要。

☆それぞれの取組について知らないことがある。さらに情報共有をしたい。

☆保護者が孤立せず一人で抱えず一人で悩まず、長い目で見て子どもの今をそのままうけとめることができるか…何か支えになれることを市の取組として考えていきたい。

☆不登校生も含めて家庭支援が必要な家庭について相談したいとき、児相・子育て支援課・保健師・療育コーディネーターなどがどのようにつながり、どのような連絡体制になっているのか自校では把握できていない。手順等がわかるとありがたい。

☆学校では、児童生徒本人及び保護者と連絡を取ることが難しいケースも多く、関係機関との連携が不可欠。しかし、連絡レベルに終始し、進展のない場合もある。積極的傍観者も含め、絶え間ない支援が必要であると考えている。連携の具体を明確にし、支援の充実を図りたい。

☆すべての生徒の居場所をつくり、個別最適な学びを保証する「通信制の新たなカタチ」に学ばせていただいた。「ゆとり」と「選択」を大切にしたカリキュラムは、現在の義務教育学校に求められているものと一致していると思う。不登校傾向にある児童生徒のみならず、カリキュラム、日課等を改善する大胆な学校改革が必要な時を迎えていると思う。従来の教育方法も一つとして、児童生徒自身が多様な選択肢から自らの生活を創る、児童生徒の主体性を導く学校づくりが必要であるとする。

☆「学校への依頼文フォーマット」は、様々児童生徒、家庭の様子に対応するための一つのアセスメントとして活用できるのではないかと。本人や保護者との関わりを大切にする内容が含まれており、支援が停滞しないようにしたい。また、この内容に含まれない対応についても状況に応じて行ったり、定期的に内容を見直したりしていくことも必要。使用にあたっては整理しておく必要もあると感じる。

- ・全国、長野県とも不登校生が過去最多になっていることに対して、学校現場はどうなっているのかという議論はいつするのか。
- ・「サテライト校」の新設には、県教委の創意工夫と地元住民の方々の熱意を感じる。ただ、通信制独自のレポート提出による単位取得のしこみは、不登校経験者には高いハードルだと感じた。
- ・第3回の会議の際は、委員全員に出席していただけるように呼び掛けてほしい。

## (2) 今後の予定

〈第3回 12月15日(金) 14:00~16:00〉

ア 不登校児童生徒の状況(コロナ禍とその後の変化)

イ 各学校・関係機関の取り組み・連携の工夫⇒子どもの多様な居場所・連携の情報提供について